

(様式 8)
(Attached Form 8)論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (教育学)	氏名 Author	SOMMAY SHINGPHACHANH
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation Identifying Mathematics Teacher Educators' Professional Learning and Issues in Lesson Study Approach in Laos			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member 主 査 Committee Chair 馬場卓也(広島大学大学院国際協力研究科・教授) 印 Seal 審査委員 Committee 清水欽也(広島大学大学院国際協力研究科・教授) 審査委員 Committee 牧 貴愛(広島大学大学院国際協力研究科・准教授) 審査委員 Committee 丸山恭司(広島大学大学院教育学研究科・教授) 審査委員 Committee Maitree Inprasitha (Khon Kaen University, Associate Professor)			
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 知識基盤社会で求められる教育の質において、教師は最も中核的役割を果たしている。ラオスでは、近年世界的に注目される授業研究 (Stigler et.al, 1999) を用いた教師教育の改善を図る国際協力プロジェクトが実施されている。しかしこの授業研究は、日本の文化性を背負っており、他国に移植した時に表面的な模倣に終わっていることが指摘されている (Lim et al. 2018; Hunter & Back, 2011)。本研究では、その指摘に対して、ラオスの教員養成大学(TTC)にて実践される授業研究とそこでの教師教育者の専門的学びに関する研究である。これまで、教育学部生や現職教師の学びについての研究は多数なされているが、本研究では教師教育者を対象にしている。 論文は全 7 章で構成されている。第 1 章において問題の所在と本研究の目的および方法を述べた。本研究では、教員養成大学における授業研究と教師教育者の専門的学びの様相を分析することを目的とする。第 2 章では、本研究で鍵となる「授業研究」および「教師教育者による専門的学び」について先行研究のレビューを行い、本研究の取り組むべき課題を同定した。第 3 章では、国際誌に掲載された授業研究に関する論文(42 編)に対して Grounded theory を用いることで初期的枠組みを作成し、2018 年 3 月全教員養成大学 (7 大学) における授業研究の実態を予備調査し、枠組みの妥当性を確認、最終化を行った。その際、教師の役割と教師教育者の役割に分け、さらに各々においてレベル 0 からレベル 3 まで 4 段階(協働・教授、教授学習教材、知識、理論化)を設定した。第 4 章では、本調査の方法について説明し、第 5 章では、3 つの教員養成大学(Svannakhet, Pakse、Khangkhay)にて 2 サイクルの授業研究に参加した 34 名 (内、教員養成大学教師教育者 30 名、附属小学校教師 4 名) を対象に、事前面談、第一回授業研究、事後面談、フィードバック、第二回授業研究、事後面談、質問紙実施という手続きを踏んで 2019 年 4 月に実施した本調査について説明した。第 6 章では分析の結果、3 大学とも授業研究はレベル 1 (教授学習教材) にとどまっていること、その内一つの大学はレベル 2 (知識) への移行段階にあることを示した。終章では、以上を踏まえて総括的考察を行った。考察の結果、授業研究の過程において様々な専門的知識、教授学習教材、協働の表出は見られたが、数学的知識が脆弱のためレベル 1 にとどまっている実態が明らかにされた。			

本論文は、以下の諸点が独創性の高い点として評価された。(1)教師教育者の専門的な学びに関する枠組みを提案したこと、(2)調査を通して、7 大学の実態を明らかにし、さらに 3 大学について授業研究の過程を詳細に明らかにしたこと、(3)段階の違いから改善可能性を示したことである。なお、申請者はこれまで、査読つき論文 3 編、国際会議発表 3 編、国内学会発表 6 編を公表した。以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。